



みどりの風

令和4年5月2日発行
校報 596号
(みどりの風 139号)
練馬区立関町北小学校

チーム関北で全ての児童の成長にかかわる

「全学年の学級編成替え（クラス替え）を追い風により豊かな人間性を育む」

校長 吉川文章

令和5年度から「全学年学級編成替え」の実施を考えています。本校は、5年生までを毎年クラス替えしておりましたので、5年生から6年生に進級する際にも、クラス替えを行うこととなります。保護者の皆様には以下の内容について共通理解をしていただきますようお願いいたします。

全学年の学級編成替えを実施している学校は珍しいことではありません。

「少子高齢化」「情報の加速度的な発達」「他者との関係の希薄化」「格差社会の広がり」等、社会状況の変化が、子どもに与える影響は著しいものがあります。本校も例外ではありません。「今の子どもたちが就労する頃には、65%は、まだこの世に存在しない仕事であり、45%の仕事は姿を消している」という予測はメディアを賑わせています。観光産業の発展や外国人労働力の拡充にともない世界中の多くの人々との関わりも急激に増えます。子どもたちは、世界中の人々と関わり仕事をすることも一般的となるでしょう。そのような、かつて経験したことのない社会を生き抜くために求められる一番必要な力はなんでしょうか。私は、「コミュニケーションの力」であると考えています。そして、現代社会で、子どもたちが、それを学ぶ一番の機会は、学校をおいて他にないと考えています。

「毎年のクラス替え」により、「子どもたちには、多くの関わり合いをしてほしい」と考えています。小学校生活の6年間において、6回のクラス替えをすることによって、学年ほぼ全ての子どもたちと関わるようになります。多くの個性との出会いです。豊かな心が醸成されるでしょう。衝突もあるかもしれませんが、つまずき、失敗をしながら学ぶのが小学校です。むしろ、大きく変化する将来の社会の中で「生き抜く力」が育つ「絶好の機会」と前向きにとらえます。

文部科学省は、高学年の専科制度導入をめざし、専科教員の計画的な配置を予算案に盛り込んでいます。専科教員による指導が中心の中学校は毎年の学級編成替えです。そういった国の教育の流れにも沿った取り組みでもあります。

関北小には、「学級王国」という発想はありません。先生方には、関北小に通う全ての子どもたちを自分のクラスの子どもたちのように、家族のように思っただきたいと考えています。「全ての児童の心根に寄り添った支援」は、本校の教師に求める理想像であり、本校の特別支援教育の推進の原点です。学年の結束力は学校の結束力に結び付くと確信をします。

多くの保護者や地域の方々が、子どもたちの笑顔や成長を「我が事のように」「我が子のように」喜んでくださっています。関北の保護者や地域の皆さま、我々教職員全員がそう思い、「チーム関北」で全ての児童の成長に関わる理想の学校の実現に向けた重要なアクションであるをご理解ご支援ください。